

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NIT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ29】

### J R 東日本革マル問題ウォッチャーとして特に気懸かりな問題 松崎氏の正体も何も、本当は全て知っている J R 東日本幹部役員の “ 異常な沈黙 ” の裏側

例えば、『日生研レポート』には次のような記述がある。

会社の役員及び社員には「尾行及び盗聴と脅し」(2004年 春季号)。

...革マルは国鉄から J R への民営化を利用して会社に潜り込み、非公然活動家が組織的に尾行・盗聴・監視活動を繰り返しながら会社首脳陣のスキャンダルを握り、脅迫しながら裏支配をして革マルの活動資金供給源としてのシステムを構築してきたことが浮き彫りとなった(同上)。

J R 東日本トップの一人にまつわる話として、次のようなことがあったという。

その人物の中学生になるお孫さんについて「イジメ」問題に起因する「登校拒否」問題が起きた。そこで、その人物は可愛い孫のためを思って他区の中学校へ転校(麹町中学校 九段中学校へ)させようと試みたのだが、東京都の義務教育学区制のからみで成功しなかった。折りしも、「学校の苛め問題」を特集していた新聞記者がそれを知って、取材したところ、お孫さんのお母さん、つまりその人物の長女に当たる方が、「あの子も可哀想なんです。精神的に少し不安定なところがあって苛めにあいやすいのですが、それは赤ちゃんの時...」と記者に打ち明けた話によると、そのお孫さんが赤ちゃんの頃、長女ご夫婦の傍らに小さな布団に寝かせておいた赤ちゃんが夜中に布団ごと家の中から消え、夢中で外を探し回ったところ、上下の車輛往来の激しい高速道路の中間の植え込み・緩衝地帯に布団にくるまれたまま放置されていたのを発見した。 しかもそれが一度限りの事件ではなかったのだという。

ぞっとする話だし、革マル派非合法活動部隊の仕業と断定する根拠もないが、では一体、これは何なのであろうか？ 時期的には、J R 発足間もない頃の話である。その人物のスキャンダルにまつわる話ならばともかく、全く別種、異次元のこれは非人道的、凶悪犯罪である。警察も捜査はしたが何の手がかりもなく、この異常な怪事件は「犯人不明」のままに終わったのだという。

いずれにせよ、わが国旅客鉄道輸送の基幹的地位にある J R 東日本会社が、何でもありの犯罪集団が周辺で蠢動するような企業であってはならない。 J R 東日本の最高首脳の一にまつわる話として、中学生のお孫さんにかかわるこの “ 異様な事件 ” が起こったことは「間違いのない事実」だし、妙に心に引っかかる事件なので、敢えてここに紹介した(傍線は筆者)。

< J R 東日本労政 『二十年目の検証』201ページから202ページより抜粋 >

# 民主化の声・声・声・・・

2005.12.20 その29

## (読んではいけない?) 「小説労働組合」の読み方! (9)

～佐藤正雄氏失踪事件と、さつき会経理偽装問題～



\* 警察は鉄道連合の関連会社を家宅捜査して得た情報の細部を分析した。組織の資金の保管や運用や使用内容が、チェック体制を含めてあまりにもでたらめなのに唖然とした。W線の駅近くのH銀行にある武藤名義の金庫もつかんだ。大元が湯水の如く勝手放題に使っていた多額の組織資金は、組織と組合員のためとか日本の平和と民主主義のために使用しているとかの大元や武藤の言と異なり、単なる私的使用にすぎないとの確証を得ていた。最大の眼目にしている労働者党への資金提供もあるだろうと推測した。警察は「Xデー」を設定する決意を固めはじめた。(p. 145～146)

\* 警察の動きを知らされた大元は勿論、鉄道連合や関連会社の役員達は、事の重大さに頭の中が真っ白になった。大勢の前で大元は凄まじい形相で武藤を一喝した。最も忠誠を尽くしてきた筈の大元に激怒されて武藤は震え上がった。茫然自失の状態になった。・・・武藤は悩み苦しんだ。苦悩は深くなるばかりである。<こんな事態になるなんて。明日の対策会議をどうすればいいのか>どんなに考えても、いい案は浮かばない。大元が最後に言った「責任をとれ」という言葉と、鬼のような形相のみがくりかえし思い出された。夜も遅く自宅に帰った武藤は、一睡もしないまま朝を迎えた。昼から予定されていた「対策会議」に武藤は現れなかった。日が暮れても、ついに武藤は事務所に姿を見せなかった。鉄道連合の事務所は慌ただしい動きになった。夫人は武藤は自殺するのではないかと心配になり、警察に捜査願いを出した。大元や側近たちは事件が警察に知られてしまったのに仰天した。(p. 146～148)

東労組の組合員が配っている本であり、解説書まで出回っているわけであるが、告訴好きの団体のことを考え個人名は極力避けると、おそらくこの文脈の読み方は次のとおりであろう。

【大元( M氏)が湯水の如く勝手放題に使っていた多額の組織資金は、「単なる私的使用にすぎない」との確証も得ていた。さらに、私的使用の中に、最大の眼目にしている労働者党( 革マル派)への資金提供もあるだろうと推測した。警察は「Xデー」(大元逮捕日)を設定する決意を固めはじめた。警察の動きを知らされた大元は勿論、鉄道連合や関連会社の役員達は、事の重大さに動転した。大勢の前で大元は凄まじい形相で武藤( S氏)を一喝した。最も忠誠を尽くしてきた筈の大元に激怒されて武藤は震え上がった。大元が最後に言った「責任をとれ!」という言葉と、鬼のような形相がくりかえし思い出された。夜も遅く自宅に帰った武藤は、一睡もしないまま朝を迎えた。そして、その日の午後に予定されていた「対策会議」に武藤は現れなかった。】

2003年10月上旬、日本鉄道福祉事業協会の佐藤正雄理事長が数日間失踪し、捜索願が出されたことは事実である。自宅や協会が契約している貸金庫まで家宅捜索され、組織に甚大な被害を与えてしまった佐藤は、身を隠すしかなかったのだろうか。